

令和元年度 第3回医療的ケア部会 会議録

日時：令和元年 11月 19日（火）10：00～11：20

場所：高松市社会福祉協議会 東館 2F 会議室

参加者：さぬき市障害福祉課・さぬき市国保健康課・高松市障がい福祉課・高松市こども園運営課・高松市総合教育センター・高松市保健センター・直島町住民福祉課・三木町健康福祉課・三木町まんてが子ども課・三木町教育総務課・高松赤十字病院・支援センターこがも・支援センターたかまつ・基幹中核

計 15名

議題

1. 圏域としてのコーディネーター（以下 Co.）の役割整理と今後のフォローアップについて

・県の支援者養成研修と Co.養成研修は終了した。国の研修も終了した。Co.は県内で 40 名程養成され、うち 2/3 程度が高松市内の関係職種。行政（保健師等）が多く、MSW や相談支援専門員もいるが、医ケアのケースにこれまで関わりがないという Co.もいる。

・Co.の役割…医ケアに関する一定の理解を持つ、個別ケースに対してタイムリーな情報提供を行う、適切な資源につなぐ、現場で支援を行う関係者に対するフォローアップを行う、地域変革。

⇒Co.が個々で動いていくのは難しい。圏域で Co.がうまく機能する仕組みを、県とのつながりの中で作っていく必要がある。

【圏域としての Co.の役割整理】

・高松市…資源を手探りで探す状況だが、Co.同士が繋がれば迅速ではないか。ケース会などの取りまとめ役を Co.が担ってくれるようになるのか。教育としては、その児のこれまでのことをよく知っている方からのアドバイスが欲しい。受け入れに必要な準備をどう進めるのか等アドバイスが欲しい。

・三木町…まんてが子ども課と健康福祉課の 2 名が Co.研修に参加し、課の連携はしやすくなった。

・さぬき市…相談支援事業所から 1 名ずつ受講した。協議会も活用して、事例から地域を変える動きができるようになれば。まずは現状の集約から始める必要がある。自前で Co.のフォローアップ研修をしていくのは困難、高松圏域と一緒にできれば。

⇒フォローアップ研修は高松圏域、大川圏域の合同で行う。

【どのように配置するのか】

・高松市は核となるところを医療と福祉に 1 つずつ（“センター”ではなく仕組み）置ければよいのではないか。

⇒今後 Co.を巻き込みながら検討していく。

2. 施設看護師研修について

・施設看護師は主治医から指示書を受けてケアに当たるが、内容が十分でない場合もある。生活介護では配置が義務だが、看護師が 1 名しかいない職場もあるため、職場を越えた看護師同士のつながりも必要。医ケアを理由に生活介護の利用につながらないケースもある。

→多くの参加を得るためには、週末、土曜の午後が良いのではないか。

→内容については、実技だけではなく、困った時の対処法や、医ケアの現状も知ってもらえるような内容にしたい。

⇒年度内に実施、講師の一人はメンバーの高松訪問看護ステーションに依頼の方向。

3. 地域診断、資源の有効利用と開発について

- ・ Co.研修で地域診断を行った。
- ・ 高松市では短期入所の受け入れ先を増やす（ネックはスプリンクラーの設置が必須になる）ことと、1～3号研修により現場職員が医ケアに対応できる状況を作る必要がある。
- ・ 介護福祉士は数年前の資格取得者から医ケアができるようになっているが、香川県では県の規定が整っていないため、それができない状況にある。

【次回開催予定】 令和2年2月25日（火）10：00～（今年度最終回） かがわりハ第2研修室